



「未来志向」「ONE TEAM」で、JR産業に「安心」を取り戻そう！

2022年 2月28日

日本鉄道労働組合連合会

JR北労組 第1・2回団体交渉

「賃金は最大の労働条件」処遇改善の必要性を訴える！

JR北労組は2月18日、2022年春季生活闘争の第1回団体交渉を行い、同8日に会社へ提出した申2号「2022年度賃金引き上げなど、労働条件の改善に関する申し入れ」に対する趣旨説明を行った。

JR北海道は、第3四半期連結決算でコスト削減等により、経常損益が黒字化するなど持ち直しの基調も見られたが、長期化するコロナ禍や今冬の度重なる大雪により厳しい経営状況が続いている。そのような中、交渉でJR北労組は、「JR北海道の安全確立と経営安定にむけては、組合員が長期に亘り、安心して働き続けることができる環境づくりが重要である。とりわけ、若年層やエルダー社員の処遇を『働きの価値に見合った水準』へと改善することは、モチベーションの向上や離職防止にも繋がる極めて有効な方策である」と「人への投資」の必要性についてあらためて主張。感染防止に努め、日々業務に精励する組合員の労苦に応えるべく、JR北労組の切実な要求に対して、誠意ある回答を行うよう会社に求めた。

同24日に行った第2回団体交渉では、会社が概況説明を行った。会社は、「感染リスクの不安に晒されながら、公共交通機関を支え、現場第一線で日夜業務に従事されている組合員に敬意を表する」と謝意を示した。さらに、「今年度は国からの支援も重く受け止め、目に見える成果をあげるべく、各計画を遂行していく」としたうえで、足元の経営状況について「第3四半期決算では、前々年度比約5割の収入であり、528億円の赤字を計上。経営安定基金の下支えによって黒字化したが一過性のものであり、雪害も相俟って、収入の回復は不透明である」と述べつつも、JR北労組の要求を真摯に受け止め、誠心誠意検討を行い回答していく考えを示した。

ジェイ・アール北海道バス(株)にも要求書を提出

JR北労組は2月25日、ジェイ・アール北海道バス(株)に対して、「2022年度賃金引き上げなど、労働条件の改善に関する申し入れ」を提出した。所定内賃金1,000円引き上げなどの「賃金の改善等に関する要求33項目」「労働条件等の改善等に関する要求45項目」の実現にむけて、今後団体交渉を強化していくこととしている。